

後期高齢者の「低栄養」を予防する ための「食と心理的支援」の研究

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科

教授 加藤 佐千子

研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2016年度～2018年度

研究分野： 高齢者生活・低栄養



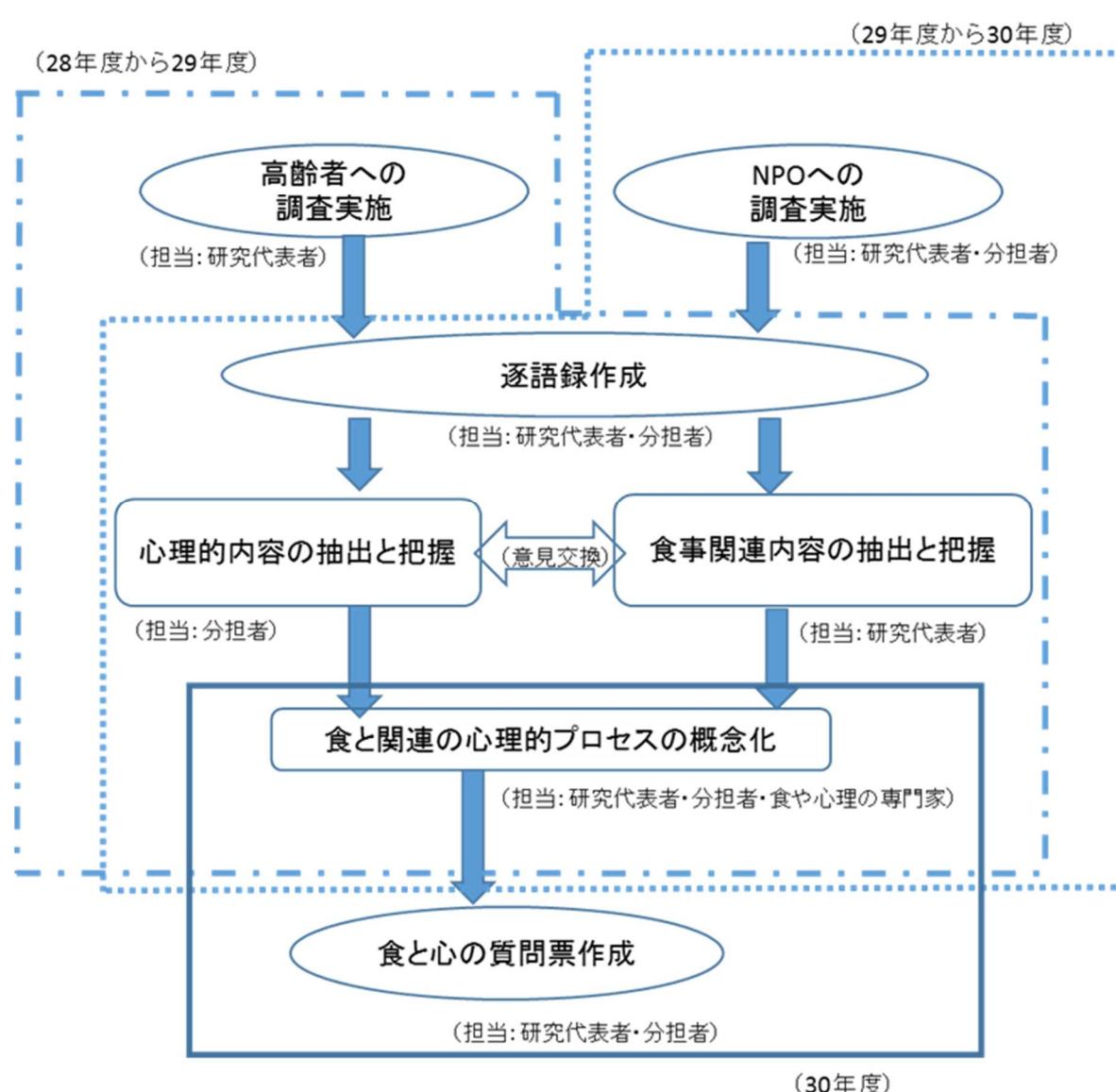
高齢期の低栄養状態は、サルコペニア(筋力や骨格筋量の減少)やフレイル(虚弱)を招くことが問題となっており、特に地域在宅の独居高齢者においては、低栄養に陥らないような食生活への配慮と実践が求められている。また、低栄養に陥らない方策を早急に広く地域在宅高齢者に向けて発信していく必要がある。しかし、高齢期における抑うつや心配事等の心の状態が、食欲低下等の望ましくない食行動をもたらすことが指摘されている。したがって、食事や栄養指導などの食支援に加えて、情緒的な心の支援も必要であると考えられる。

そこで本研究は、後期高齢者の食習慣や生活習慣の状況、食生活(食行動や食環境)状況および食生活に関連する心理的状況を明らかにする。また、老年学の知見を活かしながら前期高齢期から後期高齢期への加齢過程における食行動や食環境の変化および心の変化の状況を、高齢者自身はどのように認知しているかについて明らかにする。得られた結果をもとに「食と心理的支援必要度チェックリスト」を提案する。チェックリストの活用は後期高齢者の食生活改善や低栄養防止に貢献できると考えられる。

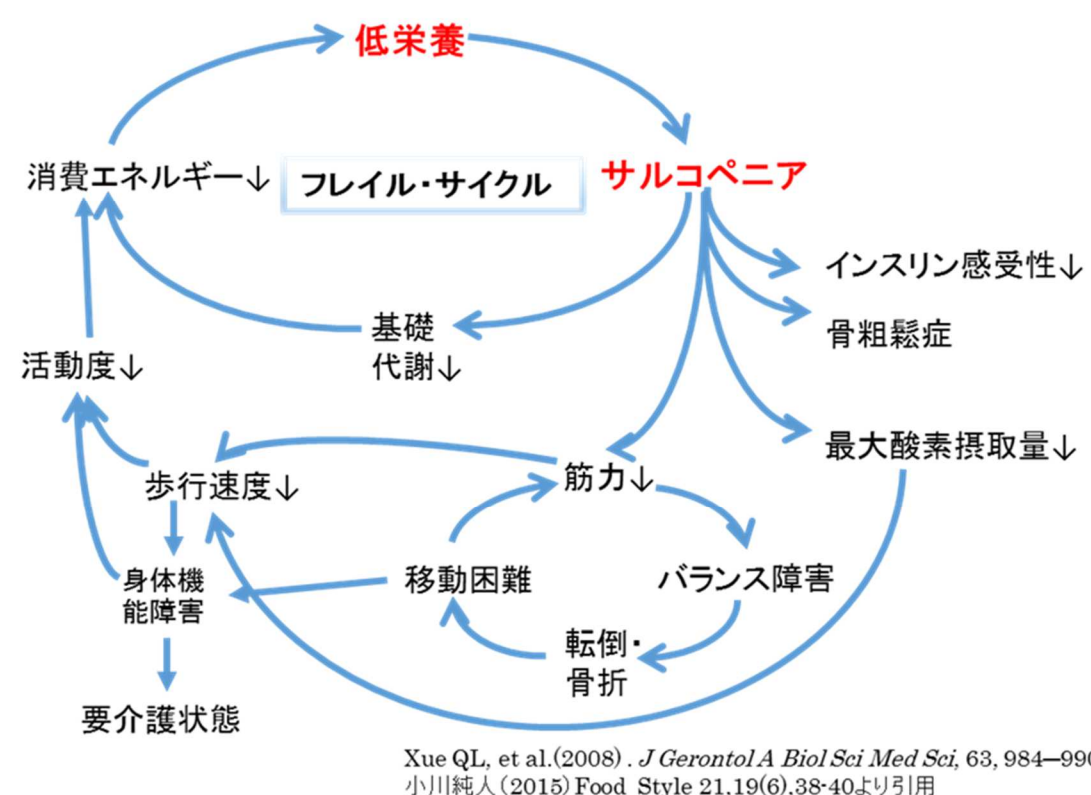
主な著書

1. 加藤佐千子・長田久雄: 地域在宅高齢者の食品選択動機と食の多様性および食品摂取との関連 日本食生活学会誌 19(3) 202-213(2008) 査読有
2. 加藤佐千子: 生活機能の高い高齢者における「食物選択動機」の構造 医学と生物学 156(7) 489-499 (2012) 査読有
3. 加藤佐千子: 生活機能の高い高齢者における食物選択動機の様相 京都ノートルダム女子大学紀要 43 15-28(2013)
4. 加藤佐千子 他[14名、6番目]「第9章毎日の自覚的食生活が生み出すサクセスフル・エイジング」『生活福祉文化資源の探求これからの日本の生活様式を求めて』ナカニシヤ出版 141-156 (2013)
5. 加藤佐千子・渡辺修一郎・芳賀博・今田純雄・長田久雄: 女性高齢者の食物選択動機と野菜選択、健康度自己評価、個人属性との関連 日本食生活学会誌 25(3) 191-202(2014) 査読有

研究計画



フレイルの悪循環とサルコペニア



京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789
FAX：075(706)3793
電子メール：kenkyu@notredame.ac.jp